

東三河広域連合議会傍聴記

④

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

昨年1月末に発足して一年。東三河8市町村による東三河広域連合議会の2月定例会が2月9日、10日の二日間、豊橋市役所で開かれた。9日は議場で一般質問が行われた。

■広域連合にチャンス到来

佐原光一広域連合長は新年度予算の大綱説明の中で、「全国で地方創生への取り組みが始まり、今年には地方創生元年です。このような時に広域連合も『まち・ひと・しごと創生総

合戦略』の策定がで

きるようになった」と報告。これは私たちがの東三河広域連合に対する期待の表れと強調し、「東三河地域の悲願であった

信を述べた。

その後行われた一般質問には6人が登壇した。

■広域連合の地方創生

星野隆輝氏(豊橋市)は「まち・ひと・しごと創生法」の一部改正により広域連合が「創生戦略策

会の荒波に向かう構

成8市町村は団結し、しっかりと策定に取り組んでいきたい」とした。

■実効

事務局長は「実効性の高いものにしていくために、総力を挙げてできる限り早く策定したい。また各市町村の人口ピ

題があり、これらを

広域連合で束ねる時に、互いに補充しあつた発展的視野が必要である」と強調した。

■生涯学習施設の交流拡大

山田静雄氏(豊橋市)は設立後の評価と課題について議論し、構成市町村が一

いるとの答弁を受

け、山田氏は東三河地域間相互交流をさらに活発にするために、各市町村の生涯学習施設への拡大を提案した。

東三河には合併の

経過もあり、多くの公共施設があり、維持費や老朽化の問題

だ」と主張した。

■広域連合の全体最適
成長する広域連合として、事業拡大における8市町村と全体のバランスについて議論したのは豊田一雄氏(豊橋市)。

豊田氏は、施策によって各市町村では

調。職員に対して広

域的視野に立った幹部・職員研修、啓発の必要性を確認した。

広域連合として「人口ビジョン」や「創生戦略」を策定することになり、更には新たな広域連携や権限移譲に取り組む事になることから、その意思決定のあり方も含めて、どこまでも「東三河は一つ」を貫けるかどう

広域連合にも創生戦略

新城ICが2月13日

に開通する。夏には海フェスタも開かれる。広域連合としてもこの機会に内外に情報発信し、この地域の人が誇りと愛着を持てるようま

定」の対象になったこ

とについて、広域連合はどのような体制、スケジュールで取り組むのかや、各市町村の各総合戦略との整合性などを聞いた。

ジョンを参考にし、

広域連合の戦略的施策に取り組みたい」と答弁した。

体となって取り組む

広域連携事業の公共施設の相互利用について問題提起した。「ほの国子どもパスポート」事業が2011年度から始まり、32施設を毎年13万人が利用して

もある。地域資源の

再確認とも併せて地方創生にも寄与するのではないかと期待される。

利益にはならないが

広域では発展成長につながる施策もあり、成長の幅を広げることの必要性を説き、事業を選択する際には広域連合としての全体最適の立場に立つべきだと強

か、この広域連合の成否につながるのではないだろうか。その意味で広域連合も「創生戦略」策定だけでなく、新たな段階に入っていくことを印象つけた質問だった。

に手を取り合っ

町村の人口ビジョンを合計すると64万8千人となるが、それぞれの転出入には課

山田氏も「このこ

とにより広域連合としての公共施設管理計画に生かすべき

に立つべきだと強

問だった。